

進修同窓会会報

発行 土浦一高進修同窓会

編集 同窓会会報編集委員会

〒300-0051 茨城県土浦市真鍋4-4-2

ホームページ <http://www.sin-syu.jp/>

メール shinshu@tsuchiura1-h.ibk.ed.jp



昨年4月の総会におきまして会長職を拝命してから、早くも1年8ヶ月が過ぎ去りました。この間の様々な活動を通じまして、会員の皆様には、深いご理解と絶大なるご支援とを賜わり、誠に有り難く厚く御礼を申し上げる次第でござります。

6月に「蒼穹」をテーマに開催されました「第78回一高祭」でも、明治期の、西洋の香り漂う木造建築への人気は依然として高く、2日間での旧本館への来場者は、当初の予想を大きく上回って、1,500名を超える結果となりました。展示されている諸史料は、会員各位のご尽力により丁寧に集められ、本会が整備した真新しい陳列台で公開されております。国の重要文化財である旧本館は、NHK・民放を問わず、いろんなドラマの撮影地としても多くの人に知られ、私どもが想像する以上に有名になっております。しかしながら、屋根の天然スレートが落下したり、外壁や内装が剥がれ落ちるなどの問題が生じておりますので、早急な対応が必要だ、と思量いたしております。

本校は、令和9年度に創立130周年を迎える伝統校で、卒業生も37,000名余を数える全国有数の名門校であり



同窓会長あいさつ

会長 小野 治

(高9回)

ます。周年記念事業として、記念式典・

記念講演会などを計画しているとのことでありますので、本会としても、総務・式典・講演会などの委員会を設け、

全面的に学校側をバックアップしていくたい、と考えております。

全27普通教室に係る、「本県産のヒノキをふんだんに使った、ぬくもりのある教室」への改裝工事は、資材費や人件費の更なる高騰を受け、当初の予定より若干遅れていますが、25ヶ月の工期で、再来年12月には竣工の予定であります。「正倉院」のような校倉造りとはいきませんが、ヒノキの、優れた調湿機能・調温作用が、宝物である生徒の心身の健全な成長に幾分なりとも寄与するに違いない、と期待するのであります。

全国的にも誇れる学力水準にまで高められた母校の、更なる充実に貢献出来る同窓会でありたい、と考えます。同窓生同士の絆をより確かなものにし、諸活動を益々活発なものにして、母校を物心両面で支えていく同窓会を目指していく所存であります。

改めまして、母校土浦一高と附属中との益々の発展と会員の皆様の更なるご活躍とをご祈念申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。



校長あいさつ

校長 プラニク・ヨゲンドラ

土浦一高進修同窓会の皆様
ナマステー皆様の母校である茨城県立土浦第一高等学校・附属中学校長のよぎ（プラニク・ヨゲンドラ）です。校長3年目となり、同窓会の皆様のご支援が本校の力強い推進力となっていることに、日々深い感謝を抱いております。

学校全体では、教育活動や進学実績が着実に成果を上げています。生徒は授業に加え、特別活動、探究学習、各種行事に意欲的に取り組み、科学の甲子園、ディベート大会、プレゼンテーション大会、弁論大会、美術展、模擬国連などに挑戦し、誇れる実績を残しています。今後は数学甲子園や生物甲子園にも注力し、次のステージに向けて土台作りを進めていきます。中高6カ年のより具体的な教育計画の作成も進めており、さらに統合的な教育活動を目指します。

附属中学校からは、今年度78名が内進生として高校に進学し、162名の高入生と共に高校1年次がスタートしました。学級は高入生とは別編制ですが、体育や部活動、課外活動は共に行い、2年次からは融合した学級編制を予定しています。高校での単位制の導入も定着し、より多様な学びを提供しています。

進学実績も向上し、東京大学や医学部をはじめとする難関大学への合格者は増加傾向にあります。また、数名の生徒が海外に留学し、リーダーシップを磨いています。費用面の課題を踏まえ、交換留学制度の導入を検討しているところです。さらに、10月

には台湾への修学旅行を実施し、現地校との交流や企業見学を通じて国際感覚を養いました。探究学習についても、サイエンス、医学、マネジメント、ビジネス、DX（デジタルトランスフォーメーション）、中国語の、6つの専門探究を導入し、選択肢を広げています。

附属中学校においても、授業と特別活動の両輪で成果を上げています。水泳で関東大会に出場し、4位入賞を果たしたのをはじめ、県大会において、陸上部は複数の入賞者を出し、吹奏楽部は金賞を獲得するといった、好成績を収めました。さらに科学部も健闘し、海外・国内の学校との交流を通じて多样性を実感しました。

定時制では、今年度も多くの入学生を迎えて、口コミでの評判の広がりを感じます。卒業生の就職・進学支援に力を注ぐとともに、NGOとの提携により、地域経営者によるキャリア教育を実現しています。部活動でも健闘し、全国大会での活躍が続いています。定時制においては、4カ年の教育計画の作成を進めており、無駄を省きつつ、生徒が必要とする教育活動の充実に努めています。

インフラ面では、普通教室棟や正門周辺の工事が今年度から開始されました。より快適で安全な学習環境を整えています。旧本館については展示室の整理が進み、外壁などの工事も来年度予定されています。2027年に控えている創立130周年記念行事時には、完成した姿を皆様にご覧いただける見込みです。

には台湾への修学旅行を実施し、現地校との交流や企業見学を通じて国際感覚を養いました。探究学習についても、サイエンス、医学、マネジメント、ビジネス、DX（デジタルトランスフォーメーション）、中国語の、6つの専門探究を導入し、選択肢を広げています。

附属中学校においても、授業と特別活動の両輪で成果を上げています。水泳で関東大会に出場し、4位入賞を果たしたのをはじめ、県大会において、陸上部は複数の入賞者を出し、吹奏楽部は金賞を獲得するといった、好成績を収めました。さらに科学部も健闘し、海外・国内の学校との交流を通じて多样性を実感しました。

定時制では、今年度も多くの入学生を迎えて、口コミでの評判の広がりを感じます。卒業生の就職・進学支援に力を注ぐとともに、NGOとの提携により、地域経営者によるキャリア教育を実現しています。部活動でも健闘し、全国大会での活躍が続いています。定時制においては、4カ年の教育計画の作成を進めており、無駄を省きつつ、生徒が必要とする教育活動の充実に努めています。

インフラ面では、普通教室棟や正門周辺の工事が今年度から開始されました。より快適で安全な学習環境を整えています。旧本館については展示室の整理が進み、外壁などの工事も来年度予定されています。2027年に控えている創立130周年記念行事時には、完成した姿を皆様にご覧いただける見込みです。

入学枠の縮小を踏まえ、地域とのつながりを失わぬよう、学校改革や発信力の強化、近隣校との連携に努めています。「不易流行」の理念を大切にしながら、難関大学進学の実績、文武両道の維持、豊富な学びの提供、海外大学進学の推進を目指します。

さらに、生徒一人ひとりの自己理解、セルフマネジメント、リーダーシップ形成といった具体的な成長ツールを整備することも大きな課題です。その実現には卒業生・同窓生の皆様のお力添えが不可欠です。本校では「協力者人財バンク」への登録を進めておりますので、ぜひQRコードからご協力を賜りますよう、心よりお願い申上げます。

今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、心よりお願い申上げます。



新任職員紹介

全日制教頭 小松崎 理（高45回）

12年ぶりに母校に戻り、4月のまだ始業式前の日にまず目にしたのは、英語教師を囲みながら、サイドドリーダー『動物農場（原書）』を手に熱心に質問を投げかける生徒たちの姿でした。ジョージ・オーウエルの『動物農場』は、かつて私が本校で英語を教えていた頃に生徒とともに読みだ思い出の一冊であり、また、私の高校時代の恩師も、自身が一高生だった際にサイドドリーダーとして読み、深い感銘を受けたと語っていた本もあります。

その後の数か月間、勉学はもちろんのこと、部活動や委員会活動に積極的に取り組み、学校行事を主体的に運営する生徒たちの姿を目の当たりにし、本校の良き伝統が今なおしっかりと受け継がれていることを実感しています。一方で、附属中生の活躍、海外修学旅行の実施、探究学習プログラムの導入など、本校の新たな挑戦からさらなる成長を遂げられるよう、微力ながら力を尽くしてまいります。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。





此の度、本校定時制の教頭に着任いたしました町田でございます。進修同窓会の皆様には、平素より陰に陽に格段のお力添えを賜り、心から感謝申上げます。

りました。創立以来、地域社会に根ざし、教育の質を高める努力を続けてきたことは、私たちの誇りでもあります。特に定時制教育は、様々な事情を抱える生徒たちにとつて、学びの場であると同時に新たなスタートを切る大切な場所です。多様な背景を持つ生徒たちに新たな可能性を提供し、彼らが夢を追い求めるための支えとなっています。私ども教職員は、生徒一人ひとりの自己実現を目指し、可能性を最大限に引き出せるよう温かく支援して参る所存であります。

同窓生の皆様は、学校の歴史の一部であり、私たちの教育活動にとって大きな励みとなつております。今後ともなお一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年度 定期総会開催される

去る4月26日（土）に、令和7年度進修同窓会定期総会が、母校体育館において、周年祝賀卒業生等を含む約520名（昨年より170名余増）の出席を得て開催されました。

総会では冒頭で応援指導部のリードの下、吹奏楽部・弦楽部の伴奏に合わせ、校歌を、参加者全員で声高らかに斉唱しました。物故会員に対する默祷後、小野治進修同窓会会长（高9回）、プラニク・ヨゲンドラ校長の挨拶がそれぞれありました。議事に入り、令和6年度事業報告及び決算報告・別途積立金決算報告、監査報告に続いて、令和7年度事業計画案及び予算案が提出され、全てが原案どおり承認可決されました。最後

に、次年度の総会（令和8年4月25日）について事務局より発表されました。

總會後、大型又可

窓会から学校に謹呈したもの)を使用し、本会が助成する事業の1つで、今回で3回目となる

の1つで、今回で13回目となる生徒海外研修SEG（研修期間・令和7年3月16～24日、訪問都市・ワシントンDC及びボストン）に参加した生徒代表から、その成果・意義について熱い報告がありました。※詳細はホームページ「土浦一高SEG」をご覧下さい。

引き続き、以下の学年の卒業周年祝賀式が執り行われ、祝辞を一ノ瀬正樹氏（高28回）が述べた後、以下各回の代表者に小野会長より記念品が贈呈されました。

40年3月卒業) 卒業60周年.. 高校17回(昭和 坂本栄様、同じ

（定期制）高15回（昭和41年3月卒業）武石進様
卒業50周年…高27回（昭和50年3月卒業）嶋田一郎様
卒業40周年…高37回（昭和60年3月卒業）島田恵一様
卒業25周年…高52回（平成12年3月卒業）横山寛様



令和6年度 進修同窓会 入会式挙行される

た。ありがとうございました。
(本部事務局長 高21回 助川
博夫)

「卒業50周年」・「卒業60周年」は「ロープ」に、「卒業25周年」は「東雲」に移動して開催されました。久し振りの懇親会とあって、各会場は和やかな雰囲気ながらも活気に溢れ、参加者が130名を超える学年もあれば、恩師旧友ともども時を忘れてのひとときを過ごしている様子でした。なお、総会の会場設営にあたっては、当日早朝より、生徒・教職員併せて200名余りの協力で、会場の準備がなされました。

卒業15周年…高62回（平成22年3月卒業）倉内裕史様
最後に、謝辞を須田義之氏（高27回）が述べました。
祝賀式終了後、それぞれの懇親会は、幹事のお骨折りで、「卒業15周年」・「卒業40周

令和7年2月28日、卒業式。予行終了後、全日制普通科第77回卒業生に対する同窓会入会式が行われました。コロナ禍で、この数年間は対面では実施されませんでしたが、前年度より対面での式が復活しました。前年度は大学入試日程の関係で、出席できない生徒が多かつたのですが、今年は日程が調整され、6クラス240名の生徒の大部分が出席できました。

冒頭、小野治同窓会会長から、「全国には20余の支部があり、活動に活動しています。卒業後、皆さんも支部活動に積極的に参

喜田輝依都
大久保あかり、
細見拓真、木村瑛人
『各組幹事』 A-F組各4名
(氏名省略)

り、「卒業後は住所が頻繁に動くこともあるでしょうからお互いに連絡を密にし、各組幹事は住所録をしつかり作成してください。また、評議員会が年に1度開かれますので、評議昌は出席よろしくお願ひします。それでは、15年後の周年祝賀式に元気でお会いしましょう。」との言葉がありました。

卒業60周年記念同窓会

坂本栄 (高17回)



卒業時18才+それから60年で
すから、進修同窓会の式典に招
待されるのはこれが最後です。
体育館での祝賀式典、それに続
く市内のホテルでの宴会には75
人も参加しました。式典ではブ
ラニク・ヨゲンドラ校長の挨拶
を伺い、後輩たちの将来は明る
いと思いました。

「世界的に役立つ人材を育成
し、自分で設計した方向に強い
意志を持つて進む、そういう生
徒に育てたい。今年度から修学
旅行を復活させ、台湾に送り出
すことになりました。現地の大学や高
校のほか、世界的に競争力があ
る大企業も視察する」、「世の
中はこれから劇的に変わる。ど
んな職業が残りどんな職業が残
らないか、予測がつかない。各

日本はどちらも乗り切り、米
市場で目立つ存在になった。
ニクソンショックのときは大
蔵省を担当、オイルショックの
ときは海運造船業界を担当、自
動車摩擦のときはワシントンで
日米交渉を取材。米国の衰退と
日本の台頭を間近で見られたの
はハッピーだった。しかし日本
のおごりがバブルにつながっ
た。私も銀行幹部と飲み歩き、
彼らと一緒に浮かれていた。バ
ブル破裂のあと、日本の金融シ
ステムが意外に弱かつたことを
知った。

高は県立高の中で常にトップを
走ってきたが、より上のレベル
に持つて行きたい」。

その後の懇親会で何か喋るよ
うに言われた私は、どんな話を
するか迷いましたが、「高度成
長期に放り込まれた私たちは面
白い時代を生きた」と、以下の
ようなことを話しました。

「経済記者になつて2年目の
夏、ニクソンショックがあつ
た。米国がドルを金に交換させ
ないと宣言、ドル切り下げに動
いた事件だ。これは戦後の雄、
米国のパワーの低下を意味し
た。その後にオイルショック
が起き、産油国が先進国の秩
序に異を唱えた。

昭和50年3月の卒業から50年
の歳月が流れ、思い起こせばオ
イルショック、バブル景気とそ
の崩壊、東日本大震災と福島第
一原子力発電所事故、少子高齢
化の進展、新型コロナウイルス
のパンデミック、ITやAIの
急速な進展・拡大等、社会経済
は大きく転換しました。

国が今的位置にいられるとは思わない。日本はさらにパワーアップしていく必要がある。土浦一高は県立高の中で常にトップを走ってきたが、より上のレベルに持つて行きたい」。

その後の懇親会で何か喋るようになつたが、私は、どんな話をするか迷いましたが、「高度成長期に放り込まれた私たちは面白い時代を生きた」と、以下のようなことを話しました。

「経済記者になつて2年目の夏、ニクソンショックがあつた。米国がドルを金に交換せないと宣言、ドル切り下げに動いた事件だ。これは戦後の雄、米国のパワーの低下を意味した。その後にオイルショックが起き、産油国が先進国の秩序に異を唱えた。

日本はどちらも乗り切り、米市場で目立つ存在になった。

ニクソンショックのときは大蔵省を担当、オイルショックのときは海運造船業界を担当、自動車摩擦のときはワシントンで日米交渉を取材。米国の衰退と日本の台頭を間近で見られたのはハッピーだった。しかし日本のおごりがバブルにつながった。私も銀行幹部と飲み歩き、彼らと一緒に浮かれていた。バブル破裂のあと、日本の金融システムが意外に弱かつたことを知った。

また、同窓生からの提案を受けて、同窓会の受付の場を活用して進修同窓会会費の納入をお願いしたところ、多くの同窓生から協力が得られましたので、ご報告させていただきます。

最後に、私達の今は、在学時の恩師、先輩、同窓生、後輩との出会い・交流等を通して培われてきたものであり、そのことに心から感謝申し上げますとともに、土浦第一高等学校及び進修同窓会の益々のご発展と皆様方のご多幸・ご健勝を心からお祈り申し上げます。



卒業50周年記念同窓会

嶋田一郎 (高27回)

令和7年4月26日 (土)、土

浦第一高等学校での進修同窓会総会・周年祝賀式を経て、午後4時から土浦市川口の「ローブ」に於いて、私達第27回卒業生の卒業50周年記念同窓会を開催しました。恩師としてお招きできたのは、飯村弘先生お一人でしたが、同窓生120名弱に出席いただきました。小坂博事務局長を中心に、卒業時のクラス毎に2名程度の実行委員をお願いし、運営について何度も打合せを重ねて準備を進めてきました。

この打合せで大変有難かったのは、卒業生の名簿管理が大変正確で、住所不明者等の把握を正しくして、卒業生の名簿管理が大変何度も打合せを重ねて準備を進めてきました。

この打合せで大変有難かったのは、卒業生の名簿管理が大変正確で、住所不明者等の把握を正しくして、卒業生の名簿管理が大変何度も打合せを重ねて準備を進めてきました。

ただ、この準備作業を進めるに当たって、大変苦労された幹事さんもおられたとのことで、そのご労苦に改めて感謝申し上げる次第です。

当日は、卒業以来の同窓生との再会もあり、「高祭や部活動、教室での出来事、恩師からの叱咤激励等に会話が弾み、50年という歳月を超えても和気藹々とした雰囲気に溢れ、一人ひとりが楽しく貴重な時間を過ごしていただけたと感じられました。

ただ、この準備作業を進めるに当たって、大変苦労された幹事さんもおられたとのことで、そのご労苦に改めて感謝申し上げる次第です。

恩師への記念品をはじめ、同

窓会から概ね5年ごとに同窓会を開催してきました。

50周年記念同窓会に当たつては、これを踏まえ、実行委員会を発足させ、須田義之委員長、小坂博事務局長を中心に、卒業時のクラス毎に2名程度の実行委員をお願いし、運営について何度も打合せを重ねて準備を進めてきました。

窓生への50周年記念品や会の進行及び二次会等について、委員が納得するまで話し合いができます。

恩師への記念品をはじめ、同

窓会から概ね5年ごとに同窓会を開催してきました。

50周年記念同窓会に当たつては、これを踏まえ、実行委員会を発足させ、須田義之委員長、小坂博事務局長を中心に、卒業時のクラス毎に2名程度の実行委員をお願いし、運営について何度も打合せを重ねて準備を進めてきました。

卒業40周年記念同窓会

大久保

博(高37回)

卒業40周年、まもなく還暦を迎える私たち、いつのまにか當時の先生方の年齢を超えていました。なんとも不思議な気持ちです。

開催の1年ほど前からクラス

幹事にお集まりいただき連絡先調査。ご尽力のおかげで総会・祝賀式へ100名、学年同窓会へ130名の出席をいただきました。全国各地、遠く海外からも集まってくれた友、卒業後初めて参加してくれた(40年ぶりの)友に再会できたことはとてもありがたく嬉しく思いました。都合がつかず参加できなかつた同窓生からのメッセージーーにも心に響くものがありました。なんといっても、井川先生をはじめとして、富永先生、下代先生、村岡先生、武井先生、お元気な先生方に接することができたお蔭で、懐かしく楽しい一日を過ごさせていただきました。残念なことは、10名ほどの同窓生が既にこの世にいないことです。思い出すのは高校時代の姿、笑顔、もう二度と会えないのかと思うと寂しい気持ちになりました。

母校、土浦一高へ足を運んでいたとき、総会・祝賀式の参加を促しました。当時を思い出したり、変化を感じたり、現役の生徒と触れ



卒業25周年記念同窓会

鯉淵 十富子(高52回)

2025年4月26日、一高体育馆での周年記念祝賀式には約70名、ホテルグラン東雲での懇親会には、長瀬宗男校長先生(当時)はじめ先生方12名のご臨席を賜り、約120名の集まりとなりました。

開催に先立ち、昨年10月に幹

事打合せのため、10年ぶりに母校を訪れました。日向久先生は

副校长を務められており、原田

晋市先生(当時学年主任)は進

修同窓会でご活躍なさっていました。

オンラインで案内が届かない同級生宛に、郵便料金が値上がりしたばかりの葉書を100枚以上準備する年末を過ごし、なんとか迎えた当日。

オンラインで案内が届かない

同級生宛に、郵便料金が値上がりしたばかりの葉書を100枚以上準備する年末を過ごし、なんとか迎えた当日。

会)の出会いも活用して、益々有意義な人生を送つて下さいね。数年後の再会を楽しみにしております。



る応援披露では川口運動公園での野球応援を思い出しました。式典後に見学した旧本館。ドラ

マスペシャル「白洲次郎」や最近では朝の連ドラ「あんばん」にも登場しています。建物内では「一射入魂 土浦一高弓道部

シャツを着た銀髪の大先輩にご応援指導部のエール、SEG(海外研修)の発表など、一部張つている後輩たちをご覧いただけたことと思います。

同窓会の連絡は固定電話・ハガキから、携帯・メール・LINEなどSNSに変わり、出欠確認はグーグルフォームへと進化しました。とても便利になりました。変化に追いつけない自分に気づくこともあります。世の中は進化していくますが、変わらない思い出もあります。楽しい思い出を胸に、新しい出会いを楽しみたいものです。

『なつかしさの心理学』(日本心理学会)によると、なつかしさは孤独感を低減し社会的絆の意識を高めるといいます。近年、孤独・孤立による健康課題に対し「社会的処方」という言葉もあります。同窓会は(心理的)若返り効果たっぷりの時間でした。

今回、仕事や介護、鬱病などにより、参加が難しかった同級生もいます。次回は還暦前。多くの同級生・先生方にお会いでされることを楽しみにしています。

最後になりますが、土浦第一高等学校・附属中学校及び進修同窓会の益々のご発展及び関係

各位のご健勝と、その基盤となる地域の平和と地球の健康を心よりご祈念申し上げます。

卒業15周年記念同窓会

倉内 裕史 (高62回)

令和7年4月26日、私たち高62回生は卒業15周年記念として、母校体育館にて開催された総会と式典にて祝辞と記念品を



頂戴し、つづいてホテルマロウド筑波にて先生方をお迎えして懇親会を催しました。卒業から15年もの歳月が流れ、連絡を取ることは容易ではないと考えておりました。しかし、部活動のLINEグループをはじめ、当時からのつながりを絶やさず維持してくださった方々のお力添えにより、学年全體の約半数の同窓生と連絡を取ることができ、当日はおよそ100名が参集した盛会となりました。総会に先立ち、体育館の入口で久方ぶりに顔を合わせた瞬間から互いの近況を語り合は、再会を喜ぶ姿が見られたのは、幹事としても大変感慨深いものでした。

母校体育館での総会では、久しぶりに踏み入る学び舎の空気には、在学時代の思い出が鮮やかに、好みがえりました。在校生によるSEG海外研修の発表は英語も交えた堂々たるもので、私たちが在学していた頃の力の入った英語教育が、今もなお本校の特色として脈々と受け継がれていることを実感いたしました。プラニク・ヨゲンドラ校長の「人工知能が当たり前となる社会を生き抜く人材を育成する」という方針も、時代を見据えた教育の在り方として心強く感じました。

その後の懇親会は、旧交を大いに温めるひとときとなりました。懇親会は、旧交を大

いに温めるひとときとなりました。若き世代なので立食の料理が早々にさばけてしまうのは、と心配しておりましたが、会場全体が会話に熱中していました。ご出席くださった先生方は、それぞれに近況や教育活動の様子を伺うことができ、特に学年主任であつた新井先生の、日ごろから大規模言語モデルを活用しているというお話に、皆驚かされました。校長が語られた「A-I時代の人材育成」とも響き合うお話であり、15年前と変わらぬ先生方のご健勝ぶりに大いに励まされました。10年後、25周年の節目にも元気に再会できることを心から願っております。

結びにあたり、今回、総会と記念式典を円滑にご準備・ご運営いただいた進修同窓会事務局の皆様に、心より御礼申し上げます。土浦第一高等学校・附属中学校及び進修同窓会のますますのご発展をご祈念申し上げます。

卒業60周年に思うこと

進修同窓会定時制部会長

武石 進 (定15回)

た。若い世代なので立食の料理が早々にさばけてしまうのは、と心配しておりましたが、会場全体が会話に熱中していました。ご出席くださった先生方は、それぞれに近況や教育活動の様子を伺うことができ、特に学年主任であつた新井先生の、日ごろから大規模言語モデルを活用しているというお話に、皆驚かされました。校長が語られた「A-I時代の人材育成」とも響き合うお話であり、15年前と変わらぬ先生方のご健勝ぶりに大いに励まされました。10年後、25周年の節目にも元気に再会できることを心から願っております。

結びにあたり、今回、総会と記念式典を円滑にご準備・ご運営いただいた進修同窓会事務局の皆様に、心より御礼申し上げます。土浦第一高等学校・附属中学校及び進修同窓会のますますのご発展をご祈念申し上げます。

高校受験に失敗した私は、所謂、中学浪人として目的を見出せず、鬱々とした日々を過ごしていました。受験勉強などした事も

なく、遊び惚けていたので、自業自得である。

そんな中、学年主任の〇先生から、一高定時制の二次募集がある事を伝えられ、入学する事が出来た。幸せなことであった。

た。若い世代なので立食の料理が早々にさばけてしまうのは、と心配しておりましたが、会場全体が会話に熱中していました。ご出席くださった先生方は、それぞれに近況や教育活動の様子を伺うことができ、特に学年主任であつた新井先生の、日ごろから大規模言語モデルを活用しているというお話に、皆驚かされました。校長が語られた「A-I時代の人材育成」とも響き合うお話であり、15年前と変わらぬ先生方のご健勝ぶりに大いに励まされました。10年後、25周年の節目にも元気に再会できることを心から願っております。

結びにあたり、今回、総会と記念式典を円滑にご準備・ご運営いただいた進修同窓会事務局の皆様に、心より御礼申し上げます。土浦第一高等学校・附属中学校及び進修同窓会のますますのご発展をご祈念申し上げます。

同窓会より原稿依頼を受け、筆を執ったのはお盆の時であり、初めて、先祖について述べてみたいと思った。私は、以前より千葉県側の京葉道路に我が家字と同じ「武石インター」があり、何か縁を感じていた。

数年前、本家の方から「千葉六党」という言葉を聞いた。調べてみると源頼朝に「父とも思ふぞ」と言われた千葉常胤の6人の子供達の事である。三男馬師常について、ご存じの方も多いとは思うが、書いてみる。彼等は、相馬御厨(松戸・我孫子の付近)を所領した。現在の茨城県では唯一、利根町が北相馬郡にある。北の福島県に南相馬市がある不思議。

閑話休題。その一族が福島の現在の相馬市に下向し、地域の平和と安寧とを祈る神事としていた。受験勉強などした事も



始めたのが、一千有余年の歴史を経て今も続く、伝統の祭り「相馬野馬追」である。私も2年前に見学し、その勇壮な姿に魅了された。当時の開催日は7月の猛暑中で、観客も熱中症で倒れる人もいて、救急車の出動する事態であった。昨年からは、炎天下での馬の体調への配慮などを理由に、5月末に変更されている。

明治時代の相馬氏では、「新宿中村屋」の創始者、相馬愛蔵・黒光夫妻が際立っている。彼等は彫刻家萩原碌山(30歳没)、水戸出身の洋画家中村彝(37歳没)等の芸術家を援助した。さらにインド独立運動家、ラス・ビバリ・ボース等を匿った。これは国士・頭山満の知遇を得ての事。

よぎ校長が「出川哲朗の充電させて……」のTV番組で彼等に偶然出会った「吾妻庵」には、頭山満の揮毫が掲げてある。よぎ校長の営業力!に、感心した次第であった。私も、全国で初めて重要文化財の指定を受けた、母校の旧校舎が末長く維持されてゆく様、進修同窓会の一員として、甚だ微力ながら、お手伝いしていく所存です。茨城県立土浦第一高等学校の益々のご発展を祈念しつつ筆を擱く。

土浦支部総会・懇親会
松井 泰寿 (高21回)
報告
令和6年11月17日、総会・懇親会が「ホテルマロウドつくば」で開催され、86名の同窓生が旧交を温めました。

土浦支部の活動は、1902年(明治35年)に遡ります。同年3月28日、卒業式を終えた中学1回生32名により、卒業生相互の親睦協力と、母校の発展を目的とする同窓会規約が作られ、1回生会合を開くことが定められました。その後、土浦では、第1回卒業生の秋元梅峰氏(市内神龍寺住職)、土浦花火大会の創始者らを中心に活動が続けられていましたが、創立当初は卒業生が毎年40~50名位であり、従つて同窓会への出席者も少なく、次第に有名無実のものとなってしまいました。

しかし、昭和初期に、在京土浦中学校同窓会が結成され、海軍主計中将武井大助氏(中3回・歌人。歌会始の召人も務めた)を中心として、毎年総会が開催されるようになります。

この在京同窓会に刺激を受け、地元を中心とする同窓会結成の気運が高まり、1937年(昭和12年)4月22日、創立40周年記念式典が挙行され、会名を「進修同窓会」とし、初代会長には陸軍大佐小野木仙吉氏(中1回)が選出されました。

土浦支部の活動は、1902年(明治35年)に遡ります。同年3月28日、卒業式を終えた中学1回生32名により、卒業生相互の親睦協力と、母校の発展を目的とする同窓会規約が作られ、1回生会合を開くことが定められました。その後、土浦では、第1回卒業生の秋元梅峰氏(市内神龍寺住職)、土浦花火大会の創始者らを中心に活動が続けられていましたが、創立当初は卒業生が毎年40~50名位であり、従つて同窓会への出席者も少なく、次第に有名無実のものとなってしまいました。

しかし、昭和初期に、在京土浦中学校同窓会が結成され、海軍主計中将武井大助氏(中3回・歌人。歌会始の召人も務めた)を中心として、毎年総会が開催されるようになります。

この在京同窓会に刺激を受け、地元を中心とする同窓会結成の気運が高まり、1937年(昭和12年)4月22日、創立40周年記念式典が挙行され、会名を「進修同窓会」とし、初代会長には陸軍大佐小野木仙吉氏(中1回)が選出されました。

支部会だより

土浦支部総会・懇親会
松井 泰寿 (高21回)
報告
令和6年11月17日、総会・懇親会が「ホテルマロウドつくば」で開催され、86名の同窓生が旧交を温めました。

土浦支部の活動は、1902年(明治35年)に遡ります。同年3月28日、卒業式を終えた中学1回生32名により、卒業生相互の親睦協力と、母校の発展を目的とする同窓会規約が作られ、1回生会合を開くことが定められました。その後、土浦では、第1回卒業生の秋元梅峰氏(市内神龍寺住職)、土浦花火大会の創始者らを中心に活動が続けられていましたが、創立当初は卒業生が毎年40~50名位であり、従つて同窓会への出席者も少なく、次第に有名無実のものとなってしまいました。

しかし、昭和初期に、在京土浦中学校同窓会が結成され、海軍主計中将武井大助氏(中3回・歌人。歌会始の召人も務めた)を中心として、毎年総会が開催されるようになります。

この在京同窓会に刺激を受け、地元を中心とする同窓会結成の気運が高まり、1937年(昭和12年)4月22日、創立40周年記念式典が挙行され、会名を「進修同窓会」とし、初代会長には陸軍大佐小野木仙吉氏(中1回)が選出されました。

これにより、在京土浦中学校同窓会をはじめ、各地域の同窓会は、東京支部などの支部として、進修同窓会に包摂されるに至り、土浦町の同窓会は土浦支部となり、現在に至っています。

そのため、土浦支部の区域は、1940年(昭和15年)11月3日に土浦町と真鍋町が合併し、土浦市が発足した後も、旧土浦町域の今まで続いてきました。今回、規約作成に当たり、その区域を、ほぼ旧土浦町に重なる土浦第一中学校通学区域と明記しました。

会員資格は、①.居住地、勤務地、出身地のいずれかが、土浦一中通学区域にある者、②.幹事が推薦し、支部長が承認した者、とし、より多くの同窓生が集えるようにしました。

定刻15時、小野(岩瀬)富重氏(高21回)の司会で、総会が始まりました。小原芳道支部長(高21回)を議長に選出し、議事に移りました。幹事長・松井泰寿(高21回)より、規約案が示され、原案どおり、満場一致で可決されました。

続いて役員選出に移り、支部長に小原芳道(高21回)、副支部長に大久保博(高37回)、幹事長に松井泰寿(高21回)、幹事に小野(岩瀬)富重(高21回)。

記念式典が挙行された際に、全年

度開催され、会名を「進修同窓会」とし、初代会長には

陸軍大佐小野木仙吉氏(中1回)

が選出されました。

発会式が挙行され、会名を「進修同窓会」とし、初代会長には

陸軍大佐小野木仙吉氏(中1回)

が選出されました。

発

母校での思い出 齋

齋藤勝先生（高15回）

(昭和48年4月～昭和62年3月
平成12年4月～平成15年3月)



私が高校教師となり、母校に赴任したのは、昭和48年、28歳の時でありました。

1年ぶりに母校に戻ると
校時代に教えていただいた先生
は、1年と3年の時の担任の横
田尚義先生と、2年の時の担任
の矢口四郎先生のお二人でし
た。学年主任の福見敬雄先生は

入れ違いに退職され、離任式にお会いして励まされた事を懐かしく思い出します。さて、赴任して最初に驚いた事は、いきなり3年生の担任に当たられていたことでした。教務主任の横田先生に話すと、

「大丈夫、出来ますよ」と軽く
言われ、26回生との担任生活が
始まりました。
そして29回・32回・35回・38
回の生徒を担任として送り出し
ました。

遠藤校長の赴任 2年目に、県の教育委員会の

共通一次と一高祭 昭和54年の共通一次に向け、学校行事も変わりました。9月末の学園祭は6月に移り、6月に行っていた水戸一高との交流戦は、本校から一方的に無期限延期として止め、その代わり9月に一高オリンピックを行いました。歩く会を行いました。

その時は、夢物語のような話でしたが、おそらく先生方の頭の片隅に残つた事でしょう。次の年度の始め、教員の異動が発表されると、一昨年は赴任者の中では私が最年少でしたが、その年は、私の高校時代の同級生が最高齢で、新採が2人、その他、他の先生も全員20代でした。何となく学校が若返つたよう感じられました。

教育次長から、遠藤俊夫先生が
校長として赴任されました。
最初の職員会議で、遠藤校長
は、この様な話をされました。
「長野県は教育県で、長野高
校、松本深志高校など優秀な高
校が4校もある。例えば東京大
学への合格者数で見ると、茨城
県の高校全体を併せて、長野高
校の4つの高校の1つにも及ば
ない。私は土浦一高を日本一の
高校にしたい」と述べられまし
た。

歩く会も先輩たちがやつたコースはやらず、常に新コースを開拓していました。伝統を守りながら新しいものを作り上げようとすると、一高生の姿が見られました。（担当教師は苦労しました。）

当時の「高祭は委員会が主催して、他は部活の発表でした。委員会主催には合唱祭・演劇祭・ディベート・家族に扮装した歌合戦・担任の像コンテストなどその年により種々あります。男生徒による美人コンテストもあり、珍しいと民放TV局が2社取材に来たこともあります。た。でも数年して、よその学校がやりだすと止めてしまいました。

公立高校日本一 昭和61年、41回生を担任した時、生徒の変化を感じました。成績上位者の層が厚くなつたと思いました。つくば市や常磐線沿線の人口増を吸収しているのだと思いました。

生徒会係を卒業して、私は教務部に配属になりました。そこで、3月末の時間割編成作業に参加わりました。高野大二郎先生や村松輝美先生が中心になり、同一教科は、午前・午後にバランス良く配置し偏りをなくす。体育の授業はできるだけ1時間目は避ける。体育の次の教科は同じ教科にならないようにするなど、3日間かけて作成します。コンピューター任せにせず、細心の注意を払う。その仕事の緻密さに頭が下がる思いで

その後2年、全日制を担当して、平成15年に私は伊奈高校へ転出しました。熱意のある先生方と、素晴らしい生徒諸君に恵まれ、心から感謝致しております。

校に赴任しました。最初の1年は定時制の担当でした。本校の定時制は人気が高く、定員割れもありません。当時は私より年長の方が3つ在籍しており、何より和やかな雰囲気で、新入生も安心して学校に溶け込めるようでした。生徒は夕方廊下で会うと、「お早うございます」と挨拶して教室へ向かいます。中学まで不登校と言われた生徒の大部分が、明るく登校していました。高校を無遅刻無欠席で卒業し、短大へ進学した生徒もいました。高校で知り合い、年の差のある同級生が、卒業後結婚した事もありました。夫の実家の大分県に戻り、律儀に毎年、年賀状を寄こします。子供と一緒に相手と巡り合ったなと思います。

私が一高生だった頃は、先生が急な出張・病欠などで、授業が自習になる事がありました。すると生徒は自習になる時間を作りました。6時間目に下げる、帰宅したり映画館に直行することが出来ました。生徒にとって自習は至福の時間だつたのでした。

昭和62年に私は竹園高校へ転出しました。
竹園にいる私にも、進学状況は伝えられました。
そして平成9年に43人の東士合
格者を出し、公立高校で日本一
輝きました。
遠藤校長先生の願いが叶えられました。

卒業生レポート

「寄り道、回り道の先で巡り会った、万博プロデューサーという仕事」

石川 勝（高34回）

(34回)

が開催された。4月13日に開幕した大阪・関西万博は、会期184日間を無事に終え、10月13日に華やかに幕を閉じた。165の国と国際機関が参加し、2900万人の来場者が訪れた大阪・関西万博は、内容的にも興行的にも概ね成功を収めたと言つて良いだろう。

その万博だが、大阪で万博が開催されるのは55年ぶりで、戦後同一都市で2度の万博が開催されたのは大阪が唯一だ。万博では国際条約が交わされていて、その国際事務局（BIE）に加盟している国は181ヶ国に上る。大阪・関西万博は、この条約に定められた万博の中で、最も規模の大きい登録博というカテゴリーに属している。登録博は5年に1回開催されることになつていて、開催地はBIE加盟国の投票によつて選ばれる。多くの国が万博誘致を競う中で、大阪が2度目の開催地に選ばれることになつていて、開催地はBIE加盟国の投票によつて選ばれる。

大阪・関西万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」だ。まさに「いのち」を深く考えさせられることとなつたこのタイミングで開催する万博をどのように形にするか、私と同時期にプロデューサーに就任した他のプロデューサーと共に、何度も議論を重ねて万博の基本計画を練り上げていった。映画監督の河瀬直美さんやメディアアーティストの落合陽一さんら8名のテーマ事業プロデューサーはそれぞれの専門分野から“いのち”を解題し、各自が1館ずつ設けるテーマ館の計画へと結び付けていった。会場デザイントープロデューサーとなつた建築家の藤本壯介さんは万博会場のデザインへと結び付けていき、私はプロデューサーとして、来場者サービスや会場管理、観客輸送、入場券計画、広報、海外出展勧奨、企

A professional headshot of a man with dark hair, wearing a dark suit, white shirt, and patterned tie. He is looking directly at the camera with a slight smile.

り、誘致に力を注いでくれた方々の努力の賜物なのである。私は、そうした人々からバトンを託された形で、2020年7月に万博の会場運営プロデューサーに就任することとなつた。この2020年は、新型コロナウイルス感染症の世界的大流行が始まった年であり、世界中でロックダウンが行われ、外出や移動が制限されて、街から人の姿が消えてしまうという、過去に経験したことのない異常な状況であつた。そんな中で万博のプロジェクトがスタートしたのである。

業参加、市民参加など万博のソフ
ト面全般に万博のテーマを結び付
けていった。何度も緊急事態宣言
が出されて人々が家に閉じこもつ
ている最中に、大勢の人が集まる
未来を想像することは容易ではな
かつたが、当時の異常な状況はい
つか収束すると信じ、暗闇から抜
け出した先の新たな世界を描くこ
とに私たちは集中した。

基本計画発表後、4年3ヶ月か
けて開幕に向けた準備を進めてき
た訳だが、その間に万博を取り巻
く社会の空気は大きく変化した。
自らは次回、ヨーロッパの

SNSで「楽しかった」「また行きたい」といった声が続々と上がり出したのだ。これを受けてマスメディアもそれまでの批判的な報道を一転させ、万博の魅力や見どころを紹介する内容の番組や記事を連日報道するようになった。

何が人々の心を惹き付けたのか?それは何と言つても、万博が半年間もの長きに亘り世界の国々が一堂に集まる唯一の催しであるということだろう。国際会議などとは違ひ、万博では一般の人が楽しみながら世界の国々を知ることのできる工夫がなされている。展示やイベント、次々などの本筋を

とは違い、万博では一般の人が楽しみながら世界の国々を知ることのできる工夫がなされている。展示やイベント、飲食などの体験を通じて、さながら世界一周旅行ができるしまうような楽しさが万博にはある。i P S 心臓や空飛ぶクルマなどの先進技術、大屋根リンクグや各国パビリオンなどの非日常感溢れる会場なども大きな魅力となつていた。

母校土浦一高を卒業してから今まで、エリート街道や出世に至るまで、

街道といった将来が見通せる場所とはどんと縁がなかつた私だが、今こうして社会のお役に立てる場所にいられることは、これまでに私と関わつてくれた多くの人に助けていただいたお陰だと感謝している。私は大学卒業後、商業施設

開発の会社に就職し、2年後に退職して海外に渡った。約2年弱、海外での仕事を経験した後、帰国して広告やイベントなどのコミュニケーション分野のプランニング



大切な仲間となつてゐる。その仲間の一人が先日私に言つた。『君の言葉で忘れられないものがある。それは、人生最後に笑つた者の勝ちではないよ、笑い続けた者の勝ちだよ』と言われたことだ。さて、私はどうだろう？ ちゃんと笑い続けられているだろうか？——うん、きっと大丈夫だ。

親睦を深めて20年余 土浦一高OBゴルフ会の紹介

飯塚哲哉 (高18回)

本会は土浦一高OB/OGで還暦以上の年齢の方なら男女を問わず、どなたでも参加できるゴルフ会です。近年女子生徒の増加があり、OGの参加を見込まれることから、女性幹事を募集中です。また大会名を改めるべきか議論もしております。

発足は柔道部OBの有志の発案で、2005年10月21日に第1回目を開催して以来、毎年欠かさず開催してきました。そして本年2025年11月7日には、第21回大会が実施されました。実際に20年を超えて懇親を深めてきたことになります。

昨年の第20回大会は、11月8日、霞ヶ浦湖畔のザ・インペリアルカントリークラブで、合計145名の参加者により、盛大に行われました。近年は気候変動もあって、10月はむしろ雨が多く、開催日を11月に変更してきました。当年も幸い絶好のゴルフ日和に恵まれました。新ペリア方式による競技結果は、優勝が相澤東さん(高20回、写真)、準優勝が篠崎義明さん(高15回)、3位は小沼輝明さん(高28回)でした。団体優勝は高20回組、準優勝は高28回組、3位は高21回組でした。ベ

ストゴロス賞は相澤東さん(高20回)で76という素晴らしいスコアでした。因みに最高齢の参加年は昭和31年卒(高8回)の米寿直前の皆様でした。



第20回大会の個人優勝者
相澤東さん(左、高20回)

過去20年間を振り返ると、コロナ禍の影響で2020年は原則有志のみとなり、懇親会は省略しましたが、この年を除くと参加者は非常に多く、毎年120~160名に及ぶツワモノが集まります。ゴルフ場のキャバティの都合上、各学年から原則4名、最大12名までをガイドラインとして、団体戦、個人戦を行つて参りました。ここで感謝申し上げたいのは、毎年奮つてご参加頂いている多くの皆様と、そして裏方の幹事の皆様です。現在の幹事体制は幹事長の鈴木良治さん(高22回)、小野幹夫さん(高23

回)、花上克宏さん(高27回)、斎藤昇さん(高27回)、松本茂夫さん(高28回)、鈴木登さん(高29回)、そして多くの学年幹事の皆さんです。幹事の親睦も大切にしており、秋の本大会に加えて、春にも幹事の皆様で約50名規模の幹事コンペが開催されてきました。この四半世紀を振り返ると、日本のゴルフ人口は大きく減少してきました。「レジャー白書」によれば、第1回大会のあった2005年には減少傾向の中とはいっても、まだ1080万人のゴルフ人口であったのが、16年後の2021年には、560万人と実に半減しました。こうしたトレンドの中には、特筆すべきことです。60歳代、70歳代ではそれぞれ120万人、140万人付近を安定して維持されています。当ゴルフ会の参加者数もコロナ禍の影響を除けば、とても安定した推移をして参りました。これはゴルフというものがこれらの世代にとって非常に魅力あるスポーツであるという認識が、ずっと堅持されてきたからと言えるのではないでしようか。言い換えると還暦を超えたOB/OGが集う土浦一高OBゴルフ会は、これからも重要な役目を持つことになるだろうと期待しているところであります。

特別寄付

定時制OBの広瀬一三さんから120万円のご恵贈がありました。旧本館の理科実験器材展示台の購入に使わせていただきました。

これから人生百年と言われる時代に、毎年新たに還暦となるOB/OGの皆様を加え、健康長寿を実践する大ベテランの先輩方と共に、益々健康で楽しい親睦の会として歩んでいく

ることを、心から楽しみにしております。
当会の詳細は以下のURLを。
[https://to-shin-kai.jindoweb.com/]

会費納入のご協力とお願い

令和6年度会費納入状況は、2,152名の皆様方から6,959,000円を納入していただきました。会費は、各事業項目に充てられますので、ご協力の程よろしくお願いします。

振込先
□座記号番号
加入者名
・ゆうちょ銀行
・00340の8の15254
・茨城県立土浦第一高等学校進修同窓会

進修同窓会規則(抜粋)

第12条 本会の経費は第10条の入会金、年会費、終身会費及び篤志寄付金を以て充てる。会費は、各事業項目に充てられますので、ご協力の程よろしくお願いします。

一、年会費は、6年目以降は、3千円以上とする。

二、終身会費は、3万円以上とする。

進修同窓会定期総会のご案内

令和8年度
令和7年4月26日に開かれた定期総会におきまして、令和8年度にも、進修同窓会定期総会及び周年記念祝賀式を開催することに決定しました。

一、期日 令和8年4月25日(土) 午後1時から
二、場所 土浦第一高等学校体育館

*卒業周年祝賀式該当学年

卒業60周年 高28回 定16回

卒業50周年 高28回 定16回

卒業40周年 高38回 定16回

卒業25周年 高53回 定16回

卒業15周年 高63回 定16回

一般会員・周年記念該当会員の数多くの方が母校の門をくぐらることを期待しております。

大盛況で幕を閉じた第77回「高祭」から1年、様々な変革と苦労と喜びの準備期間を経て、「第78回高祭」は、多くの来場者が訪れ、大成功を収めました。こうして成功を収められたのも、開催に向けて協力し全力を尽くした一人ひとりの生徒、私たち生徒を信頼し様々な活動に挑戦させてくださいました。先生方や様々な面で私たちを支援してくださった保護者の皆様や地域の方々のご協力があつてのことです。改めて、第78回「高祭」に関わってくださった全ての方々に、深く感謝申し上げます。

上を見上げれば天井のその向こうに広がる大空。蒼穹とは、世間や、そして自分の中にもある常識という天井を突き破り、限りない可能性を信じて向かっていき未来を意味しています。こうしたテーマのもと、生徒全員が最高の一高祭の実現に向けて尽力した結果、ゲートの配置変更や前夜祭での立ち見の復活をはじめとする様々な改革と、工夫に富んだ壁画やゲート、クラス企画などの数々の見所に溢れています。1日目はあいにくの雨でしたが、多くの人々で賑わい大きな盛り上がりを見せました。2日目については、前日の雨が嘘のように爽やかな晴天となり、会場は来場者の方々

母校だより



昨年の秋、私たちは、内進生と高入生とが合流し、「丸」となつて「うの行事を作り上げる」という意味においては、土浦一高で最初の委員会として、活動を始めました。中高6学年の全員が主人公として羽ばたけるように、という願いを込めて「飛翔」というスローガンの下、「イチオリ」史上初めて、中高6学年がともに競技を行い、応援し合える行事を目指し、25人の委員で活動してきました。しかし、夏休み明け、部活動の日程の関係で、中高別日の開催へと変更になり、夢は半ばで絶たれてしまいました。悔しさや挫折感も味わいましたが、気持ちを切り替え、残された3週間で高校のみの「イチオリ」を完成させようと再び動き出しました。トラブルもたくさんありました。が、9月25日、先生方や生徒の皆さんのご協力のおかげで、無事

第57回歩く会実行委員会委員長
10月10日（金）平沢官衙遺跡をスタートし、小田城跡、旧藤沢小学校、上高津貝塚を経由し、旧本館にゴールするという、総距離、高校23.9km、附属中20.1kmのルートで、第57回歩く会を実施しました。今年度は、「身近な地域の理解を深める」という歩く会の目的をより実感できるよう、歴史をテーマとしたルートを作りました。そのため、チエックポイントだけでなく、道中にも古墳や寺、石碑などが多くある

まず、57人の委員とともに、ルートの作成から企画を始めました。チエックポイントやルートの案が多数出て、なかなか決めることができませんでした。しかし、近隣住民の方々のご意見や、先生、中核となる委員を先頭に全員が「丸」となって頑張つてくれたおかげで、よ

ヨット部
2年E組 友保 朝果



に例年通り、「高体操」でスタートできました。トラブルの度に申し訳なさを感じましたが、新競技の「借人競争」や復活した「部活動対抗リレー」の効果でしょうか、「楽しかった」「最高の想い出」など、声を頂け、率直に嬉しいと思えました。また、昨年度より競技を3種目増やし、リーグ制も継続したことと、全員が競技に参加でき、全員が主人公として羽ばたけるような行事になつたと実感しました。最後に、2年間ずっとそばで支えてくれた、同学年の大好きなイチオリ委員の仲間に、心から感謝の意を伝えたいと思います。「最高の想い出と経験を、本当にありがとうございました」という言葉に、心から感謝の意を伝えたいと思います。「最高の想い出と経験を、本当にありがとうございました」という言葉に、心から感謝の意を伝えたいと思います。「最高の想い出と経験を、本当にありがとうございました」という言葉に、心から感謝の意を伝えたいと思います。

に例年通り、「高体操」でスタートできました。その後も、しおりや看板作成、バスの予約など、さまざまな準備を行いました。そして迎えた当日。台風の影響が不安でしたが、進路が逸れ、無事に開催できることになり、まずはほっとしました。その後もいくつか運営上のミスはありました。が、生徒全員が誰一人脱落することなく、踏破することができます。これも各施設や各企業のご協力があつてこそだと思い、感謝しています。

終わってみると、この1年間の生活の中心がなくなってしまい、虚脱感がありますが、多くの人と関わったこの委員会での経験は、かけがえのない大切なものです。今年度の歩く会をもとに、今後は後輩たちが、新しい歩く会の歴史のページを紡いでくれるのを、温かく見守りたいと思います。

第48回高オリンピック 実行委員会委員長 2年C組 大出紗空

2年C組 大出紗空

り良いルートを決めることができました。その後も、しおりや看板作成、バスの予約など、さまざまな準備を行いました。そして迎えた当日。台風の影響が不安でしたが、進路が逸れ、無事に開催できることになり、まずはほっとしました。その後もいくつか運営上のミスはありました。が、生徒全員が誰一人脱落することなく、踏破することができます。これも各施設や各企業のご協力があつてこそだと思い、感謝しています。

終わってみると、この1年間の生活の中心がなくなってしまい、虚脱感がありますが、多くの人と関わったこの委員会での経験は、かけがえのない大切なものです。今年度の歩く会をもとに、今後は後輩たちが、新しい歩く会の歴史のページを紡いでくれるのを、温かく見守りたいと思います。

や先生方、そして私たち生徒など、多くの人々の笑顔に包まれました。第78回高祭を経て、生徒一人ひとりが「蒼穹」への歩を踏み出すことができたと確信しています。

また、昨年度より競技を3種目増やし、リーグ制も継続したことと、全員が競技に参加でき、全員が主人公として羽ばたけるような行事になつたと実感しました。最後に、2年間ずっとそばで支えてくれた、同学年の大好きな

イチオリ委員の仲間に、心から感謝の意を伝えたいと思います。「最高の想い出と経験を、本当にありがとうございました」という言葉に、心から感謝の意を伝えたいと思います。「最高の想い出と経験を、本当にありがとうございました」という言葉に、心から感謝の意を伝えたいと思います。

創立69年を迎える土浦一高ヨット部
2年E組 友保 朝果

ト部は、現在も霞ヶ浦で日々切磋琢磨しながら練習に励んでいます。部員同士の仲が良く、練習後の部室ではいつも笑いが絶えません。

ヨット競技は、参加艇が齊にスタートし、水上に打たれたマーク（大きな浮き）を定められた順番に回り着順を競うものです。ヨットは帆に風を受け、そのときに発生する揚力を推進力に変えて進みます。そのため、レース中は常に変化する自然環境を予測し瞬時に対応しながら、他の艇に先んじて有利なコースを引くことが鍵になります。体力、技術だけではなく風を読み、他艇よりも早く最適解を出し続ける頭脳も必要とする知的で魅力的な競技です。今年度は3年生の先輩が、慣れない波やうねりの大きい海での戦いを潜り抜け、見事3年ぶりのインターハイへの切符を勝ち取りました。来年の6月には山中湖で関東大会兼インターハイ予選が行われる予定です。この大会で悔いなくこれまでの力を出し切って、先輩に続いてインターハイへの出場を果たせるよう、部員一同日々の練習に励んでいきます。

文芸・弁論・哲学部

論・哲学部では、3

文芸・弁論・哲学部では、3つの部が連合して活動しています。興味関心やモチベーションによつて自由に活動を選択できるのが魅力です。とはいへ創作であれスピーチであれ、自分の考え方を纏めた上で最適な表現を追究するという点では共通しているので、自然と部員の気質も似通つており、和気藹々とした雰囲気が漂つています。文芸部の主な活動は個人の作

品制作ですが、部員間の交流やインス.ピレーションの共有のため、昼夜休みにお互いの作品を批評し合っています。OBの歌人の方を招いての座談会も開催し、創作に向かう姿勢などに刺激を受けました。

弁論部の活動は大会に向けた準備です。国際理解研究発表会では毎年県上位に入賞し、高い意欲や技術が受け継がれています。

哲学部の活動は哲学カフェの開催を主に、読書会や勉強会、国際会議などに、積極的に参加しています。

人による文章表現などを行ってい
ます。こうした活動は、一般生徒
や同窓生、市民の方々へと対象を
広げており、哲学部らしい対話の
形を模索しています。今後も地
域の活動と連携を深め、哲学を
発信していくことが目標です。

表現は素朴な人間活動です。
そこから生まれる気軽さ、自由
さを失わずに今後も活動を続け
ていきたいと考えます。また、私
達が校内外で様々な活動を開

围棋 · 将棋部

令和7年度関東高校ニス大
会茨城県予選会 男子シングル
ルス 第6位
令和7年度茨城県少年少女テ
ニス選手権大会 男子シングル
ルス優勝
西碁・将棋部
令和7年度全国総文祭将棋選
手権大会茨城県代表決定戦
第2位

硬式テニス部

令和7年度全国高校総体卓球県予選会	男子学校対抗	第7位
令和7年度全日本卓球選手権大会ジュニアの部茨城県予選	男子シングルス	第2位
令和7年度関東高校テニス大会茨城県予選会	男子シングルス	第2位
令和7年度関東高校テニス大会	男子シングルス	第3位

卓球部

令和7年度部活動での 主な大会結果（令和7年10月末現在）



ヨット部

令和7年度茨城県高等学校総合文化祭囲碁大会
9路個人戦 第2位

女子400mハードル 第2
男子400m走 第5

女子走り高跳び 第3位
令和7年度茨城県高等学校陸上競技新人大会

陸上競技部 (附属中)

弓道部 女子400mハードル 第3位
男子やり投げ 第2位
女子走り高跳び 第4位
令和7年度茨城県弓道個人選
手権大会 第8位

男子4×100m

陸上競技部（附属中）
・第71回全日本中学校通信陸上
競技茨城県大会
男子400m 第5位 第7位
3年男子100m 第2位
3年男子200m 第2位

女子バスケットボール部（附属中）

男子4×100R 第3位
軟式野球部（附属中）
・令和7年度土浦市総合体育大
会 優勝

吹奏学部（附属中
令和7年度第65回茨
楽コンクール 中学
B部門 金賞

令和7年度 全国／関東大会出場部

SEG報告 「世界の最先端を見て変化

し続けた9日間 2年F組 高松 知輝
私は、このSEG期間を通して、自分の心情が変化し続けていたことを今でもよく覚えています。9日間をアメリカで過ごし、毎日新しいものに出会う度に、思考が変わるような気がしました。

まず、私がその変化を感じた場所が世界銀行でした。そこでは、現地で働く日本人の方々に質問できる機会がありました。私は、将来像が固まつていなかつたので、世界銀行で働くことを決めた経緯を複数の方に尋ねました。すると回答は概ね共通していて、それは、今までのキャリアの自然な流れで到達したのが世界銀行だということでした。当時の自分には驚きで、転職に対する現代の捉え方なども知ることができました。

ボストンでは4つの研究室を訪問し、ここで新たな学びを得ました。それは最先端の研究に共通して、様々な分野が融合しているということです。現在学校で学んでいる内容は、既に体系化されたものであり、新しい世界を作るには、それらをどう融合するかが重要だと思いました。また、結局のところ、様々な分野が絡むのだから、固定観念に縛られず、自由な発想で考える必要があると感じました。

以上のように、様々な学びを得たSEGでしたが、全行程を振り返って出した結論は、やりたいことをやれるときやることが大切だということです。残りの高校生活動では、高校でしか得られないチャンスを逃さないようにしたいです。最後になりますが、同窓会をはじめとして、このSEGを支援してくださった方々に感謝申し上げます。

日本から、その先へ
2年B組 山崎大輔



2日目は、2クラスずつの3コースに分かれて、台湾の大学と高校とを訪問しました。英語を用いた交流は、日本では得られない貴重な体験となりました。

3日目は、企業訪問から始まり、言葉の壁に突き当たりながらも、積極的に学ぼうと努めました。その後はクラス別観光を行ない、私達のクラスでは十分という街で、願いを書いたランタンを打ち上げました。夕方には学年全体で、九份という街を散策しました。思い思いのお土産を購入したり、鮮やかな街並みを写真に収めたり、と台湾ならではの情景に心を躍らせました。

開校5年目を迎えた附属中。年を重ねることにそのパワーは高まっていく一方です。4月、大きな希望を胸に五期生が入学してきました。現在の附属中を支える三期生、頼れる身近な先輩四期生とともに、卒業した一期生、二期生を目指しながら、土浦一高を大いに盛り上げてくれると思います。

1年生が先輩の凄さを感じるのは、入学してからすぐに行われる「入門セミナー」です。附属中の生活について、丁寧に何でも教えてくれる上級生を、尊敬の眼差します。

獅子奮迅
く附属中生徒の活躍く
教頭 浅野 洋平

附属中学校の活動



土浦一高が誇る三天行事の一つである「高祭」でも、獅子奮迅のごとく活躍した附属中生。学級によっては、高校生にも負けない

生も、1年生のときに先輩から教えていただきた経験をしっかりと覚えているからこそ、堂々と伝えることができます。こうして、「次は自分が」という気持ちが芽生え、良き伝統は受け継がれていきます。



賞を受賞しました。土浦一高は地域の誇る伝統校です。附属中も同じように、地域から愛される学校を目指しています。本校高校生、真鍋小学校児童、土浦一中生とともに行う「挨拶運動」、家庭科の授業で近隣の幼稚園児と交流する「保育実習」等で地域の皆様と積極的に関わりました。また学校説明会では、実行委員の獅子奮迅の動きが来場者を感嘆させました。



いクオリティの高さで来場者を大いに楽しませました。「蒼穹」というテーマで開催した「高祭」企画運営をやり遂げたその後は、まさにテーマにあるように「青空のよう」に澄み渡る気持ち」になったことでしょう。こうして校内行事にも実行委員を中心と積極的に取り組んでいます。京都、奈良方面への修学旅行は、かけがえのない思い出をたくさん作り、心に残るものとなりました。

部活動でも、3年生を中心とまさに獅子奮迅の活躍でした。運動部では所属選手が県大会で好成績を収めた陸上部をはじめ、軟式野球部と女子バスケットボール部は市総体初優勝を飾りました。文化部活動もそれぞれのフィールドで意欲的に活動しています。吹奏楽部は今年も県コンクールに出演しました。その他、8月に行われた英語プレゼンコンテストでは、団体として県議会議長

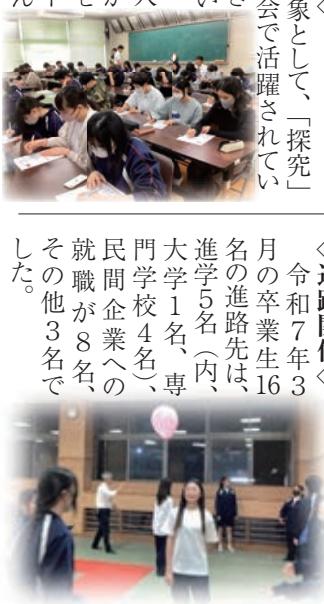
附属中生は活躍を続けます。
応援のほどよろしくお願ひいたし
ます。



定時制の活動



令和7年度は32名の新入生を
迎え、入学式を挙行しました。
新入生たちは、緊張しながらも、
仲間と共に新しいスタートを切る



令和7年3月の卒業生16名の進路先是、進学5名(内、専門学校4名、民間企業への就職が8名)その他3名でした。

6月1日、陸上競技大会が石岡運動公園陸上競技場で行われ、男子円盤投げに出場した小鳥谷勇輝君（3年）が、夏の全国大会出場の切符を手にしました。

6月8日、バドミントン競技が水戸南高校体育館で行われ、女子シングルスに出場した吉田帆希さん（3年）が見事、優勝を果たし、3年連続となる全国大会に出席しました。

保健体育科 教諭 荒木 理行 (高57回)

職員室だより



一高スタイルとして、今もなお大切にされている「あえて二兎を追え」。勉強と部活。勉強と委員会。とにかく全力で何事にも取り組む生徒が多いです。創立5年目になる附属中でも、土浦市の総体にて、陸上部個人優勝者5名、男子リレー優勝、軟式野球部優勝、女子バスケット部優勝と、見事に文武不岐を体現してくれています。今後も、生徒たちの活躍に注目ください。

は、大学進学希望者が増えています。大学進学や専門学校、就職、3年で卒業する「三修三卒」希望者など、多様な進路に対応するため、進路セミナーの実施就職希望者への面接指導など、生徒一人ひとりの希望に沿った、きめ細かな進路支援にも力を注いでいます。

高オリンピックなどの行事では、全学年で「高体操」を行う伝統が続いており、学校の「体感」を感じることができます。

昨年度、長年使用してきたブルが老朽化により壊れてしまい、猛暑の中でも、体育の授業を工夫しながら行っていました。暑さ対策をしながら生徒の体力を育む。「高体操」の創始者、入江信太郎先生の言葉に「高は進学校だから、進学にはまず体力が基本」とありました。最後の最後まで、受験勉強を頑張り切れる精神力と体力とを育んでまいりたいと思います。

な資質・能力が必要か考えよう、「男女共生社会は当たり前! 世界のパートナーシップを高めたい」、「社会人として幸せな人生を送るために基礎的な資質を高めよう」というテーマでお話を頂きました。生徒たちそれぞれが、社会情勢や未来を踏まえた上で、起業計画を立案し、評価していくたくということにもチャレンジしました。

在校生で進学希望者が増えています。大学進学や専門学校就職3年で卒業する「三修三卒」希望者など、多様な

高オリンピックなどの行事では、
全年で「高体操を行う」伝統が続
いており、学校の「体感」を感じる
ことができます。

昨年度、長年使用してきたブー
ルが老朽化により壊れてしまい、
猛暑の中でも、体育の授業を工
夫しながら行っていました。暑さ
対策をしながら生徒の体力を育
む。「高体操の創始者、入江信太
郎先生の言葉に「高は進学交だ

進路状況報告

東大14名（国公立全国20位）
京大5名
筑波大39名 東北大1515名
国公立大医学部医学科1515名

進路指導部長 坂本 拓也

（高40回）

今年度の大学入学共通テストは、新課程入試としては初めての実施となりましたが、「思考力・判断力・表現力を問う」という考え方に基づいた出題傾向は継続されています。注目された新教科の「情報」の平均点は約70点で、かなり取り組みやすい設問だったと思われます。国立大学志望者を中心とする6教科8科目（1,000点満点）の全国平均得点率は文系で+2.3ポイント、理系が+1.2ポイントと、昨年度からやや上昇しました。読み解く文章や資料の分量が近年増加傾向にありましたが、英語では全体で700語ほど語数が減少するなど、今年度は各教科とも比較的取り組みやすい問題だった印象です。

国公立大学の志願者数は、全国で1.2%の増加となりました。共通テストの平均点上昇が大きな要因で、特に、比較的手堅い出願先である公立大を選択する傾向が見られました。私は一般入試が104、共通テストが112となつて

新卒生の国公立大学合格者数は117名。現役進学率は約69%となりました、近年は既卒者となるのを避ける傾向が強まり、60%を超える進学率で推移しています。受験人口の減少や経済の低迷もあり、こうした傾向は今後も継続すると思われます。高校生活を送り、受験に臨んでほしいと思います。

本校の合格状況については、の通りです。国立難関大学の合格者数は、北大4名、東北大15名、東大14名、一橋大1名、東京科学大2名、名大3名、京大5名、阪大2名、九大1名の合計47名で、1クラス減（学年7↓6クラス）の影響もあり、前年度からやや減少しましたが、大いに健闘したと言えます。合格者の多い大学は、筑波大39名、茨城大18名で、筑波大の現役合格者数は過去6年間で最多となっています。

令和7年度入試合格状況

国公立大学

大学	合格者	新卒
旭川医科	1	1
北海道	4	2
東北	15	12
山形	2	2
福島	2	1
茨城	18	13
筑波	39	32
埼玉	2	1
千葉	5	4
お茶の水女子	5	5
電気通信	1	1
東京	14	12
東京外国語	1	1
東京学芸	2	1
東京科学	2	2
東京農工	2	1
一橋	1	1
横浜国大	2	2
新潟	2	2
信州	1	
富山	1	1
金沢	1	1
静岡	1	1
浜松医科	1	1
名古屋	3	
京都	5	4
京都工芸繊維	1	
大阪	2	2
奈良女子	1	1
島根	2	2
九州	1	1
宮崎	1	1
鹿児島	1	1
福島県立医科	1	1
茨城県立医療	1	1
東京都立	2	1
神奈川県立保健福祉	1	1
大阪公立	1	1
国公立合計	148	117

私立大学

大学	合格者	新卒
青山学院	12	11
学習院	7	6
慶應義塾	13	8
芝浦工業	22	12
順天堂	5	3
上智	14	11
成蹊	5	2
成城	2	
専修	5	3
多摩美術	1	1
中央	42	30
津田塾	5	2
東京女子	2	
東京電機	9	
東京農業	11	3
東京薬科	4	1
東京理科	85	39
東邦	8	8
東洋	19	8
日本	19	14
日本女子	6	2
法政	32	18
武藏野美術	13	11
明治	41	23
明治薬科	1	1
立教	25	22
早稲田	38	25
立命館	3	1
関西	1	1
その他	48	21
私立大学合計	498	287

大学校

大学	合格者	新卒
防衛	1	1
防衛医科	1	
海上保安	1	1
大学校計	3	2

医学部医学科

大学	合格者	新卒
旭川医科	1	1
東北	1	
山形	1	1
福島県立医科	1	1
筑波	6	5
浜松医科	1	1
名古屋	1	
島根	2	2
宮崎	1	1
東北医科薬科	2	
国際医療福祉	1	
獨協医科	1	
杏林	1	
自治医科	1	
順天堂	2	1
昭和医科	3	1
東京慈恵会医科	1	1
日本	1	
医学科計	28	15



進路指導室

令和6年度 進修同窓会決算書

収入総額 12,390,334円
支出総額 9,262,602円
差引残額 3,127,732円 (次年度へ繰越)

【収入】

項目	予算額	決算額	比較増減(△)	備考
1 繰 越 金	3,317,829	3,317,829	0	前年度繰越金
2 終 身 会 費	60,000	483,000	423,000	13名
3 年 会 費	7,000,000	6,959,000	△ 410,000	2,152名
4 入 会 金	1,250,000	1,240,000	△ 10,000	新会員 計 248名 × 5,000円
5 繰 入 金	0	0	0	
6 寄 付 金	0	389,703	389,703	
7 雑 収 入	171	802	631	預金利息
合 計	11,628,000	12,390,334	762,334	
ご寄付者名	高14回卒業生ご一同・高26回卒業生ご一同・高36回卒業生ご一同・高14回卒石岡地区有志様・土浦三中支部様			

単位:円

令和7年度 進修同窓会予算書

収入総額 12,603,000円
支出総額 12,603,000円
差引残額 0円

単位:円

【収入】

項目	予算額	前年度予算額	比較残額(△)	備考
1 繰 越 金	3,127,732	3,317,829	△ 190,097	前年度繰越金
2 終 身 会 費	60,000	60,000	0	
3 年 会 費	7,000,000	7,000,000	0	
4 入 会 金	1,265,000	1,250,000	15,000	253名(全236・定17) × 5,000円
5 繰 入 金	1,150,000	0	1,150,000	別途積立金会計から
6 雑 収 入	268	171	97	預金利息
合 計	12,603,000	11,628,000	975,000	

【支出】

項目	予算額	決算額	残額	備考
1 総 会 補 助	400,000	419,753	△ 19,753	総会資料、会場設営等
2 会 報 発 行 費	3,400,000	3,543,837	△ 143,837	会報印刷、発送
3 通 信 費	200,000	43,163	156,837	切手、はがき
4 卒 業 記念品 費	250,000	285,200	△ 35,200	卒業証書ホルダー
5 卒業周年記念品費	500,000	500,000	0	卒業周年記念品代
6 会 議 費	350,000	243,020	106,980	役員会、評議員会経費
7 支 部 連 絡 費	350,000	220,000	130,000	支部会補助
8 生 徒 奨 励 費	1,200,000	1,100,000	100,000	生徒会補助
9 生徒活動補助費	800,000	358,318	441,682	各部活動用品
10 別途積立金	1,000,000	1,000,000	0	別途積立金会計へ
11 慶 弔 費	100,000	0	100,000	
12 事 務 局 費	1,000,000	926,567	73,433	担当者手当、郵便振替手数料等
13 旧本館活用事業費	920,000	140,236	779,764	事務用品・旧本館公開準備経費
14 海 外 研 修 旅 費	1,000,000	482,508	517,492	海外研修諸経費
15 予 備 費	158,000	0	158,000	
合 計	11,628,000	9,262,602	2,365,398	

上記のとおり決算しました。

令和7年3月10日

茨城県立土浦第一高等学校進修同窓会会長 小野 治

監査の結果上記のとおり相違ないことを認めます。

令和7年3月10日

監事 草薙 宏明

監事 鴻巣 茂

監事 杉山 博

※項目間の流用を認める。

上記のとおり提案いたします。

令和7年4月26日

茨城県立土浦第一高等学校進修同窓会会長

進修同窓会会報82号

発行日 令和7年12月1日

会報編集委員会

委員長 武井 秀一(高23回)

委員 飯村 弘(高5回)

櫻井 忠男(定53回)

竹井 茂雄(高19回)

原田 晋市(高20回)

鴻巣 茂(高21回)

豊崎 利明(高25回)

櫻井 浩(高27回)

大久保 彰(高29回)

江田麻裕子(高34回)

大久保 博(高37回)

校内 日向 久(副校長・高36回)

小松崎 理(全日教頭・高45回)

町田 徳雄(定時教頭)

浅野 洋平(中学教頭)

諸岡 重彰(事務室長)

飯島 一也(高38回)

記念式典・記念講演会の準備にも着手されました▼伝統と革新の道を歩み続ける母校に誇りを感じつつ、本誌をお届けします。(飯島)

編集後記

同窓会会報第82号をお手に取っていただき、ありがとうございます▼本号では、「母校だより」の分量を増やし、母校の様子をリアルにお届けできるよういたしました▼本年度は、附属中1期生が合流した高校2年次において、土浦一高初の海外修学旅行、探究改

革が実施されました▼普通教室改装工事、百三十周年記念式典・記念講演会の準備にも着手されました▼伝統と革新の道を歩み続ける母校に誇りを感じつつ、本誌をお届けします。

住所変更手続きのお願い

Eメール shinshu@tsuchiural-hibked.jp
FAX 0291-8260-0101

進修同窓会事務局